

ある日の育児日記から

(78)

佐藤 和代



有は五歳になりました。もうお兄ちゃん！といばってますが、やっていることはあいかわらずの甘えっ子。この頃とくに「こわがり」がひどくなっていました。トイレは私が入口に立っていないとダメ、テレビもひとりでは見られない、洗面所も台所も「ひとりじゃこわい」…。まあ親はしょうがないヤツ、と言ってつきあってますが、圭はイライラしてしまうようです。「それくらいひとりでしなさい！」「お母さん、甘やかしたよ」とほとんど小姑。けんかがたえません。圭にしてみれば、自分はそんなに甘えられない

のに…という思いもあるのでしょうね。小さい頃からどうしても「お姉ちゃん」扱いされた圭です。先生方からも「しっかりもの」と言われていたし。有のようにベタベタと、遠慮なく甘える子にイライラつく気持ち、わかるような気がします。もう少し圭にも手をかけてやらなきゃ…と思うつつ、仕事と家事と有にふりまわされている日々。情けないな、ごめんね。でも圭ちゃん、お母さんだって有にひとりです

イレに行ってほしいけど、有は「トイレからお出てが出たらどうするの」って泣くのよ。これってやっぱり、こわいよね。ほっとけないでしょ？



これって子ども時代の根源的恐怖だと思